



リーディングDXスクール事業について

— 文部科学省委託事業 —

教育指導課

1 これまでの取組

【国】GIGAスクール構想 令和元年12月～

1人1台端末環境の整備

高速大容量の
通信ネットワーク環境の整備



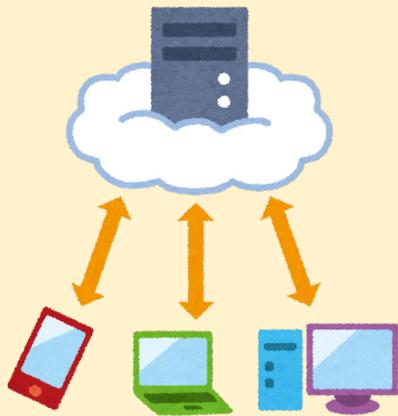
文部科学省「リーディング DXスクール事業」

2 事業の概要

Society5.0の社会に向けて

これからの **時代の変化に対応できる子どもたち** を育成する

1人1台端末で
クラウド環境 を活用する



子どもたちが
主体的に学び、
協働しながら
理解を深める授業



校務のデジタル化 を
推進する



3 本事業により鈴鹿市が育成をめざすこども

「自律した学習者」の育成

- ・柔軟な発想力
- ・自ら課題を探究して解決する力
- ・生涯にわたって学び続ける力

教師主導の
講義形式の授業



デジタルも活用した **学習者主体の授業**

自分で課題を見つける
自分で学び方を選択する
他者との協働により学びを深める



4 事業推進体制

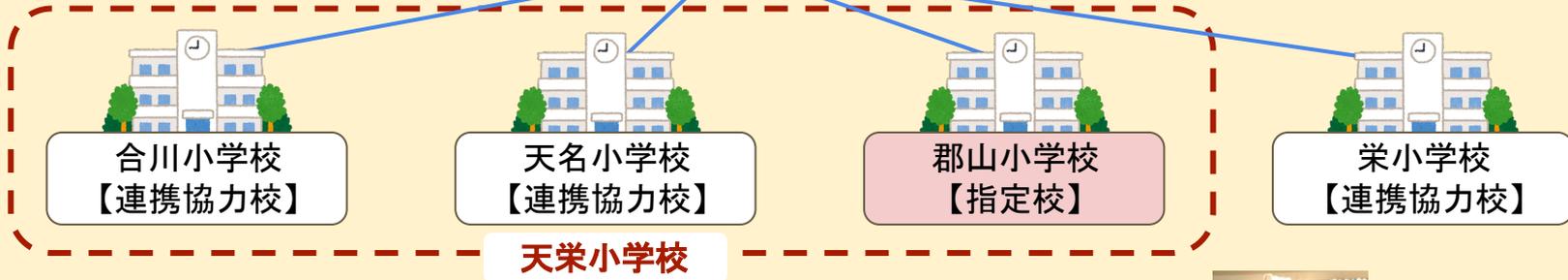


信州大学 教育学部附属次世代型学び研究開発センター
佐藤和紀(かずのり) 准教授
研修講座: 8/28(木)、郡山小: 2/13(金)



天栄中学校
【指定校】

信州大学 大学院教育学研究科
谷内(やち)祐樹 教授
天栄中: 6/30(月)、9/30(火)、11/18(火)



公開授業をとおして
鈴鹿市全体で学びあう
研修体制づくり

京都教育大学 教職キャリア高度化センター
大久保紀一郎 講師
郡山小: 5/12(月)、9/16(火)、11/17(月)
研修講座: 8/28(木)



5 児童生徒の状況

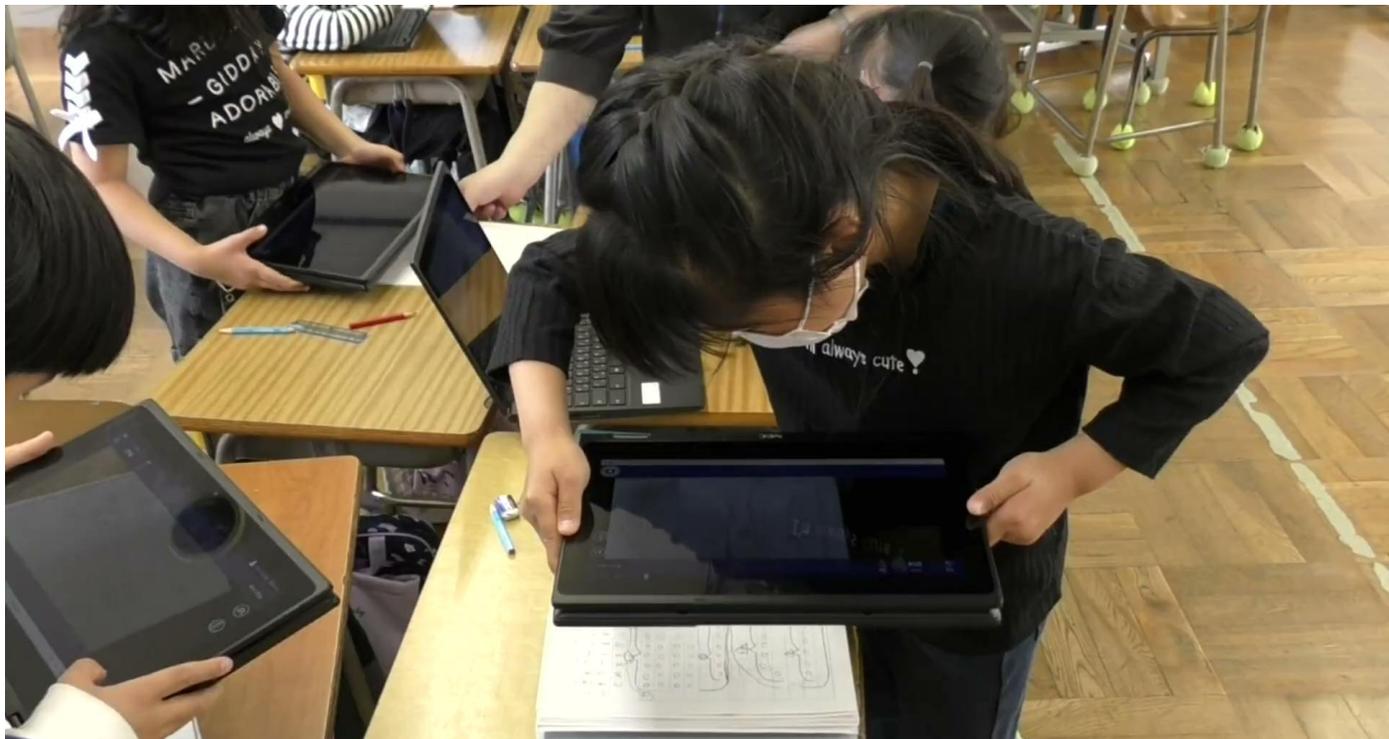
| 児童生徒質問紙 | 小学6年 ()は全国 | 中学3年 ()は全国 |
|---|--------------|--------------|
| 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか。 | 80.3%(80.7%) | 80.6%(78.6%) |
| 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。 | 81.4%(81.9%) | 81.6%(80.3%) |
| 授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間 などになっていたか。 | 82.5%(84.3%) | 83.6%(80.9%) |
| 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか。 | 85.1%(86.3%) | 86.4%(86.1%) |
| 授業で1人1台端末を、どの程度使用したか。(ほぼ毎日) | 23.8%(25.3%) | 34.5%(31.0%) |

6 実践例 1年生:生活科「クロームブックの使い方」



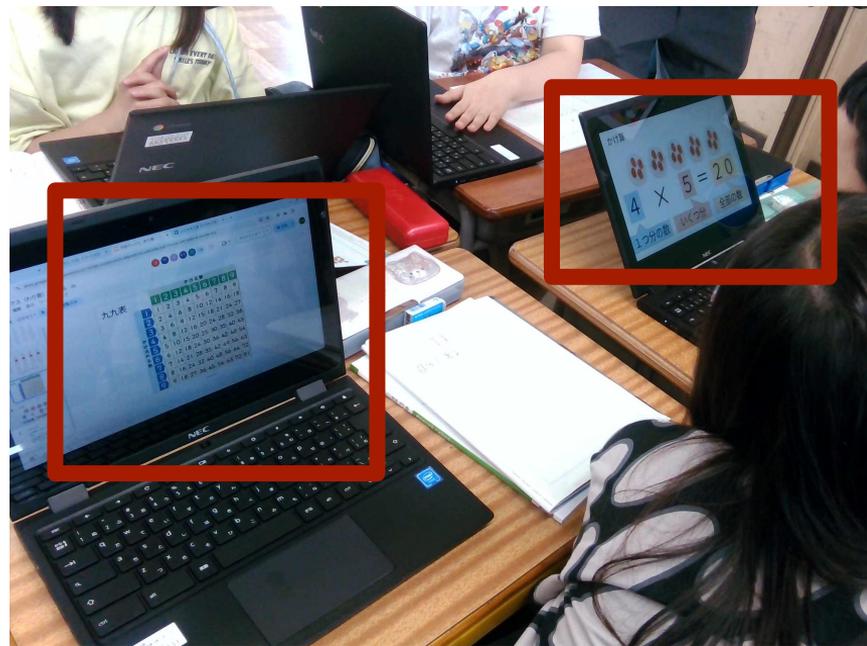
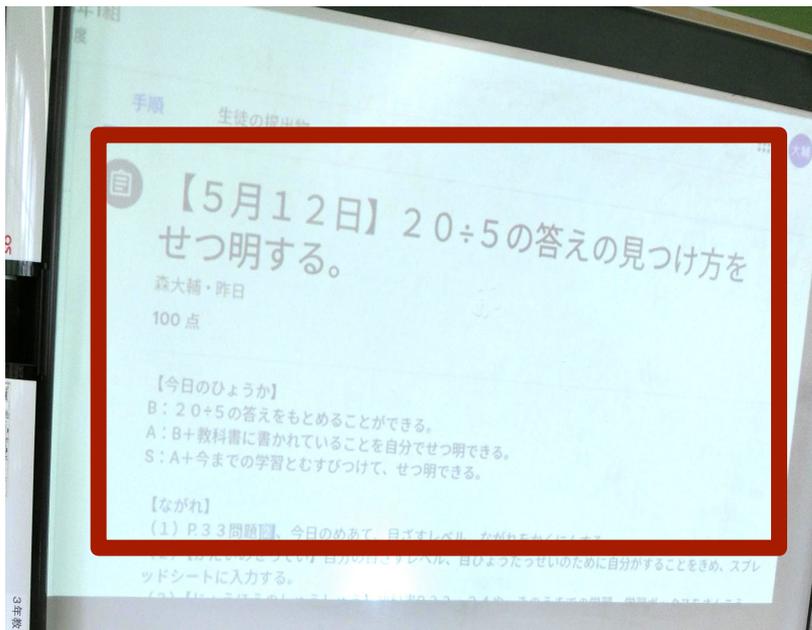
1年生から端末操作(カメラ撮影等)の技能の積み重ねが重要である。

6 実践例 2年生:算数科「引き算のしかたを考えよう」



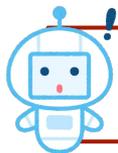
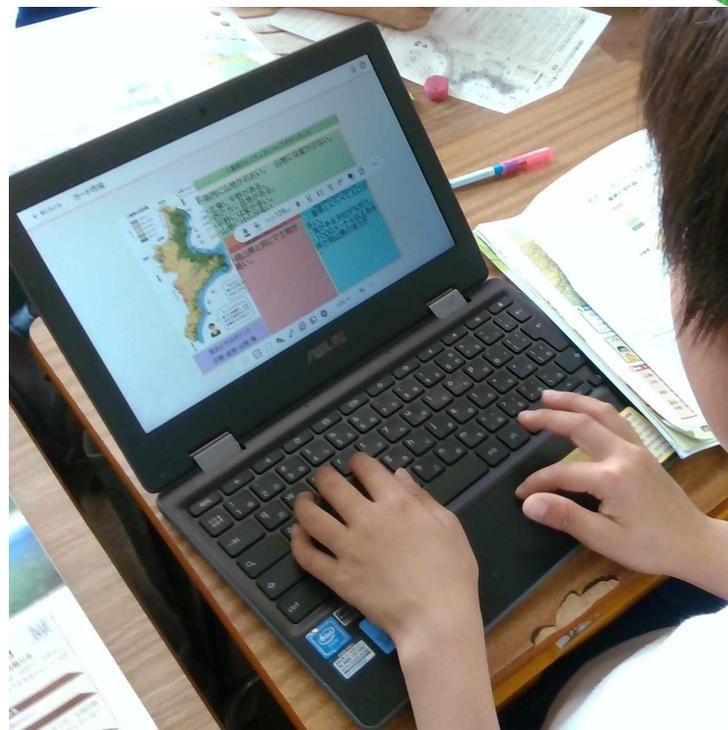
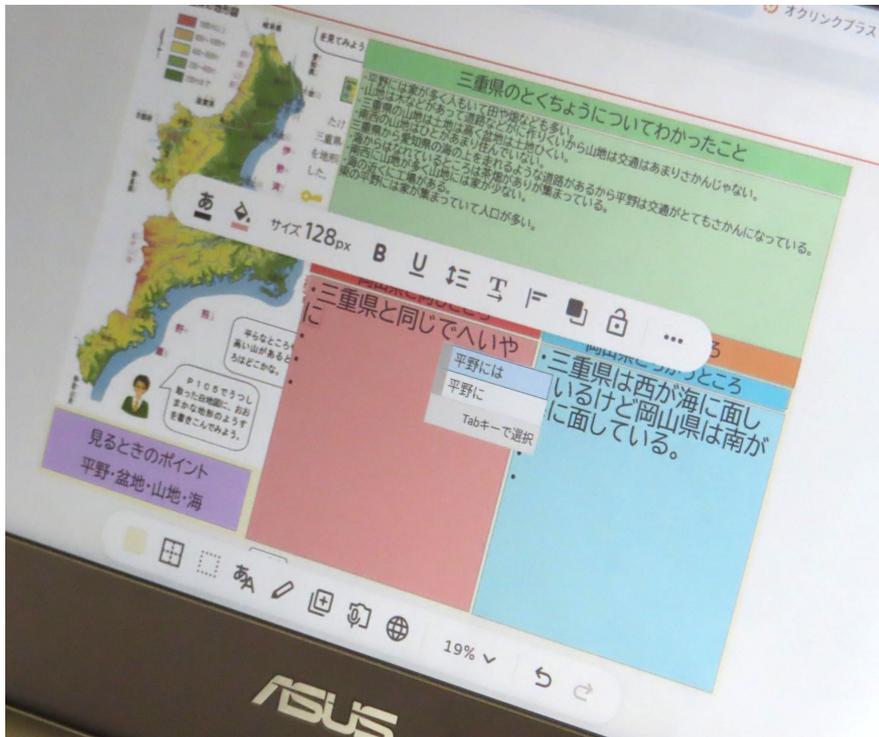
端末上で友だちの考え(ノートを撮影したもの、入力したもの)を参照する。

6 実践例 3年生:算数科「同じ数ずつ分ける時」



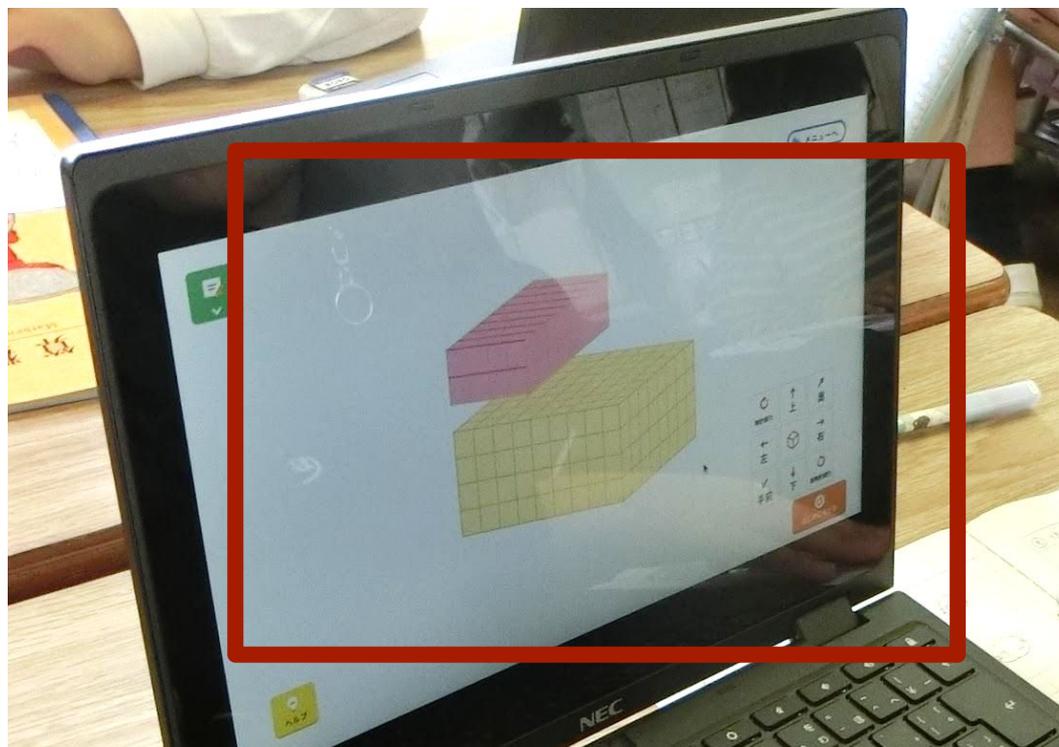
学習で使用する資料をクラウドに保存することで、
児童は自分の必要なタイミングで、資料にアクセスすることができる。

6 実践例 4年生:社会科「私たちの県の様子」



資料を見ながら、端末上で自分の考えを整理・編集する。

6 実践例 5年生:算数科「立体の体積」



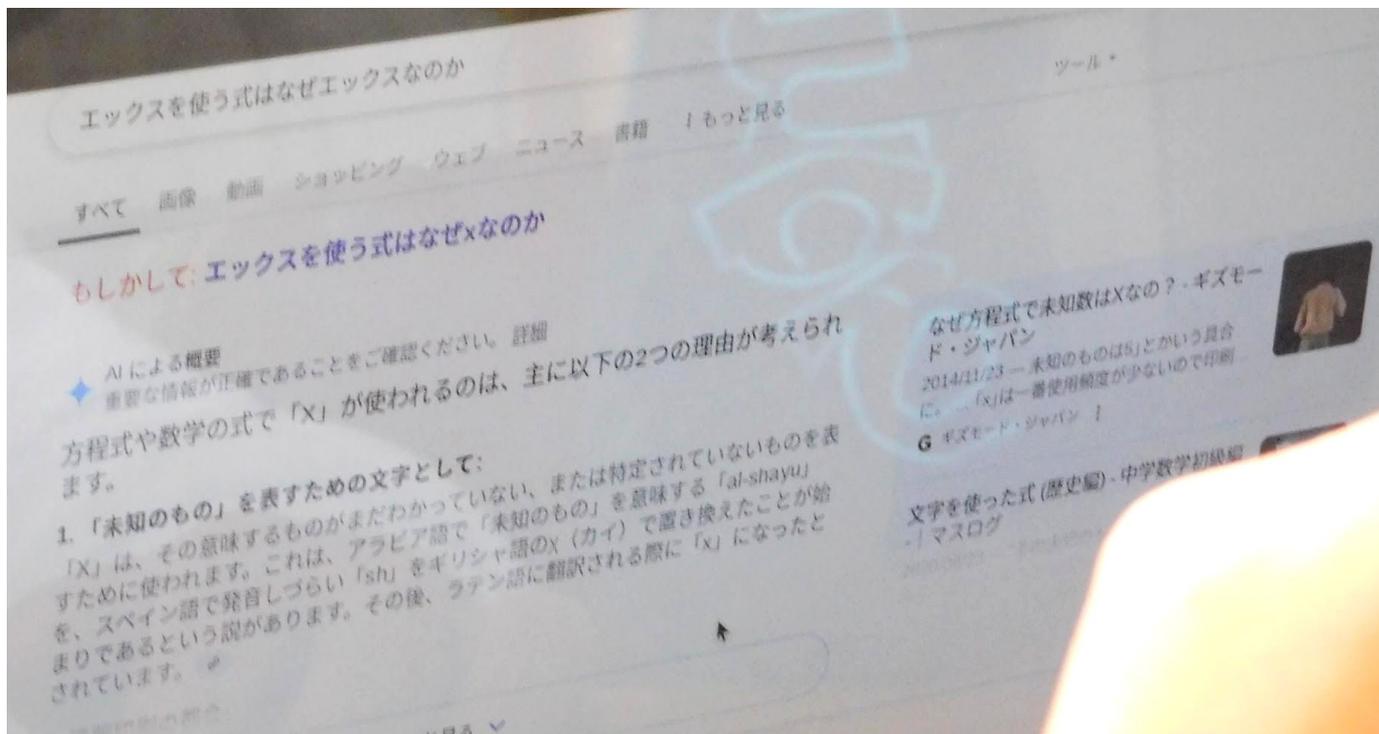
紙面上では見えない部分も立体的に捉えるために、デジタル教材を活用する。

6 実践例 5年生:算数科「立体の体積」



自分の考えを基に、学ぶ相手を選択する。

6 実践例 6年生:算数科「数量やその関係を式に表そう」



取得した情報から取捨選択して、自分の考えを形成する。

6 実践例 6年生:算数科「数量やその関係を式に表そう」



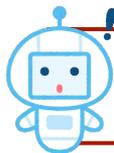
単元のゴール！

に出てくる数と数の関係を見て、わからない数をXとかYのような文字で表すことで、どんな数にも当てはまるようにしたり、その式がどんな意味になるのかを考えたりすることができる。

5/12 (月) 授業の流れ

- 1 課題確認 5分
- 2 スプレッドシートに目標設定 5分
- 3 自由進度課題！ 30分
 - ① 西暦の問題 P24
 - ② テープの問題 P25～26
 - ③ 円の直径の長さの問題 P27～28
- 4 ふりかえり 5分

文字と式
Google スプレッドシート



授業の流れを確認し、どのように学ぶのかを自分で選択する。

6 実践例 6年生:算数科「数量やその関係を式に表そう」



今日のゴール
 B: 自分の選んだ自由進度課題をがんばって理解する。(問題を解くことができる)
 A: 同じ自由進度を選んだ友達に説明できる。
 S: 違う自由進度課題に挑戦することができる。

!自由進度課題! 30分
 ①西暦の問題 P24
 ②テープの問題 P25~26
 ③円の直径の長さの問題 P27

| 番号 | 名前 | 目指す目標 | 目標達成のために自分がすること | 自己評価 | |
|----|------------------------|-------|--|------|---|
| 0 | 例 郡山 晃子 (コオリヤマ アキコ) | A | 自由進度課題①を理解し、友達に説明できるようがんばる。時間があれば、他の自由進度課題に取り組みたい。 | S | ふり返り(150字以上) Y: やったこと W: わかったこと T: 次に自分ができそうなこと 私は自由進度課題①を取り組みました。令和元年が西暦2019年になりました。この年にならぬように、 変わっていく数を、□や○で表したら、関係がわかりやすくなりました。時間が余ったので、②の課題に挑戦してみました。でも、 |
| 1 | | S | 自由進度学習の題に自分がやると決めたところまでやって、そのやると決めたところまでを理解できるようにし | S | |



授業の流れを確認し、どのように学ぶのかを自分で選択する。

7 教員研修の在り方の見直し



参観しながら、気づいたことを入力し共有する。



助言者の話を聞きながら...

| 参観しながらの記入も可能です。 (ごどもの具体的な姿をもとにして) | | 研修会が始まる前にご記入ください。 | |
|---|---|---|---|
| 「考えを伝え合う姿」が見られたか (「分らんから教えて」「どこ?」「もう一回言って」など声でいいい)など) | 「ともに学び合う姿」が見られたか (「そこ、わたしがいっしょ」「ほくは少しちがって。」など声に合わせた)など) | 1人1台端末は効果的に活用されたか(各目のアイデアや、疑問に思ったこと) | 自ら学び続けるごどもの育成につながったか |
| ・図や考え方を自分のノートに書いていたため、考え方の共有がでない。 ・振り返りのスプレッドシートを開くのは終盤だけで良かったのではない。 | 「1個ずつ」「2個ずつ」「3個ずつ」配るのときを考えて(情報収集)、「かけ算になっている」という共通性を見出す(整理・分析)ことで、「かけ算で求められる」というところに到着できる、その思考の流れがあるなどよい。 | ・スプレッドシートで学びの蓄積がされていた。 ・図や考え方を自然に共有できる環境をつくれるようになった。 ・操作ができると包含除との区別が明確になる。 | 子どもに委ねるまでに、児童はどこまで活動の見直しを促していたか、「考えたい」と思っていたか、教師の指示中心で活動に入ってしまった。 |
| 「図に書いたとおりあえず分かるよ」という発言があった。 | 多くの子どもたちの思考がまとまっていたので、教師の全体への介入があったために、「5の段で考えるのは」という仲間に向けての発言があった。 | ・単元計画を子どもたちと共有して学習の見直しをもたせる ・学習の手引き(探究の過程に沿って)の掲載 | 情報活用能力の育成を意図していたが、どのようにその能力をどのように活用しているかがまだ身についていないところがある。 |
| ・「ちょっと見とってな」といい、ノートに自分の考えを書き、説明する姿が見られた。 ・説明することが注の目標であること、子どもたちの理解の様子から、掛け算を使うという点について、最初に一斉指導があつて良かった。 ・「かけ算はわかるけど、式がわからん。」 | ・「友達の見学」の動画を参照して考える | ・クラスルームの見直しを随時確認し、学習を進める児童 ・友だちの考え ・自分の考えを持って ・児童が動いて聞き ・聞き手を含む他者 | |



他のグループの意見を相互参照する。

チャットで即時に共有する。

5月12日、16:12

- 子どもたちが無駄に待たない=個別最適な学び
- 5月12日、16:16
- 子どもたちがやる気になる、1時間に3回以上の声かけ。
- 5月12日、16:16
- 子どもたちと単元の見直しを共有することは、「本時主義にならない」ということだと認識しています。
- 5月12日、16:16
- 共同編集を基本に、途中を参照できる。
- 5月12日、16:17
- 子どもをどう見取ればいいのか
- 5月12日、16:17
- 「自分が見たい時」に他者参照ができるなどよい。
- 5月12日、16:17
- 途中参照をしても真似することはあまりない。自分で考えをもつようになる。
- 5月12日、16:19
- 生身の人間にどうフィットさせるのが大事!
- 5月12日、16:21
- 教科書から必要な情報を取り出せるように指導する。

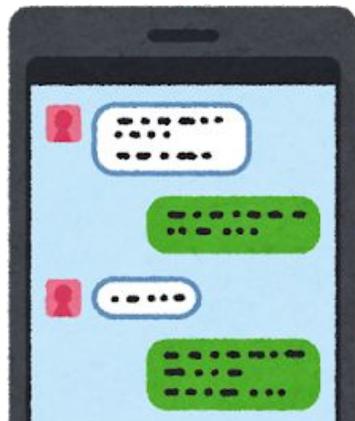


まず教員が、クラウド環境の良さを実感する。

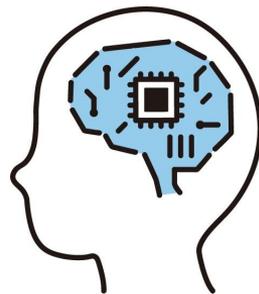
8 校務DXによる働き方改革の推進



会議資料の
ペーパーレス化



チャット等
で連絡



生成AIで
案作成



オンラインドリル



教職員の業務の効率化につながる。

9 今後の予定

令和7年度

令和8年度

研究授業



ウェブサイトでの発信

リーディングDXスクール事業とは・・・



「リーディングDXスクール」は、文部科学省が推進するGIGA未来の活用を促進し、教育の質を向上させるための事業です。具体的には、児童生徒がICTを得意から活用し、一人ひとりの学びを深めると同時に、空想的な学びを育むことを目指しています。また、校務の効率化も推進し、全面に良い事例を広げていくことを目的としています。全面的な学校が、この事業を参考に、ICTの活用を推進し、より魅力的な教育を提供していくことが期待されます。(詳しくは下記リンク「リーディングDXスクール」参照)

本年度、鈴鹿市が本事業に採択されました。この「リーディングDXスクール事業特設ページ」では、鈴鹿市の日々の取組を紹介しています。

郡山小学校の取組 5月12日(月曜日)

5月12日(月曜日)に京都教育大学の久保紀一郎先生をお招きして、研修会を行いました。

1～6年生の取組と事後検討会の様子を紹介します。

- ① 1年生の取組 (PDF: 1_1M8) [PDF](#)
- ② 2年生の取組 (PDF: 669_8K8) [PDF](#)
- ③ 3年生の取組 (PDF: 794_6K8) [PDF](#)
- ④ 4年生の取組 (PDF: 622_8K8) [PDF](#)
- ⑤ 5年生の取組 (PDF: 973_8K8) [PDF](#)
- ⑥ 6年生の取組 (PDF: 809_3K8) [PDF](#)
- ⑦ 教職員の様子 (PDF: 1_8M8) [PDF](#)

- 京都教育大学 久保紀一郎先生 講演会(体験セッション) [PDF](#)
- 5月12日(月曜日)に郡山小学校にて行われた公開授業における事後検討会での久保紀一郎先生の講演会の様子です。
- 郡山小学校の授業実践を通して、1人1台端末の効果的な使い方や子どもの学び方の指導等、今後の鈴鹿市の授業改善の方向性について、御示唆をいただきました。

天栄中学校の取組

鈴鹿市夏期研修会



先進地視察



「情報」カリキュラムの作成



「リーディングDXスクール事業」
2年目申請予定

天栄小学校
「教育課程特例校」
（「情報」の新設）
申請予定

関係校の
全国研修会



